葉状体はスポンジ状で、裏面にはイチョウウキゴケと同様な紫色のリボン状鱗片を多数下垂、鱗片葉の形態はイチョウウキゴケに酷似しているが縁鋸歯はイチョウウキゴケよりも浅い。植物体の大きさはイチョウウキゴケとほぼ同大である。イチョウウキゴケの変種のようでもある。

北海道での採集は最初なので、極少の植物であることは間違いない。昨年採集のものを培養していたが、自生地が様変りしたため、再確認することができていない。広い北海道のことであるから、どこかにまだ自生地があるものと思われる。

ナガエツルノゲイトウ印旛沼に多産

斉 藤 吉 永

下総、印旛沼畔にキク科のサクラオグルマ*Inula yosezatoana* Makinoの撮影にでかけたが、天候が不安定で小雨がぱらついたりで1日を棒に振り、2日後の1992.10.3に再度印旛沼を訪れた。やはり天候が悪く帰り支度くをして身軽になって近くを歩いてみた。

マンジュシャゲが水田の畦を濃紅に飾り、ピンクのサクラタデ、白色のナガボノシロワレモコウが驚く程沢山咲いていて、どこからかカンタンの鳴く声が流れていた。

場所を移動して沼辺を歩くと妙な花を着けた草の一群を見つけた。ヒシやオオカナダモ、ササバモ、ドチカガミも近くに見られる場所で、1本を水から引き上げて観察したが名前が判らず、写真を撮ってから若干を標本用に採集した（佐倉市舟戸）。今度は橋を渡って沼の反対側に廻り良くカワセミの姿を見た場所に寄って見た。

このあたりはホテイアオイとドチカガミが大繁殖しているばかりであったが、釣り人のよく歩くマコモやコガマが繁りアレチウリに覆われた水辺で同じ植物を見た（印旛村師戸）。

2ヶ所共3㎡程の面積に繁茂していた。これも若干採集して帰宅後調べてみたが、僅か中国の植物図鑑に似たものがあるだけで、水草研究会報をくって見ると1992刊会報No.46に内山寛氏外5氏の報文『1989年度日中協同研究による中国華中地方における水草の観察』の3頁の写真にもあって見当がついたものの、自信がなく角野康郎氏に御教示をお願いした。

早速角野氏から文献のコピーまで添えて細かい御教示を得た。これで始めてナガエツルノゲイトウ*Alternanthera philoxeroides* (Mart.) Griseb.であることが判った。

1992.10.4に別の用事で印旛沼にでかけ少し足を伸ばして作家吉川英治氏の母堂の生家のある佐倉市江原地先の鹿島川畔に大群落があって驚かされた。この川畔には吉川英治氏の歌碑があってその写真を撮っているときに眼についたのである。

計測したわけではないが100mにわたって繁殖していて面積にすると80㎡位であろうか。

この附近にはキンガヤツリも数株生えていた。印旛沼を舟で精査するならもっと広く繁殖していることが判明するであろう。とにかく下総印旛沼にナガエツルノゲイトウが帰化していることを報告したい。

終りに資料まで添えて御教示賜った角野康郎氏に心から感謝の意を表したい。

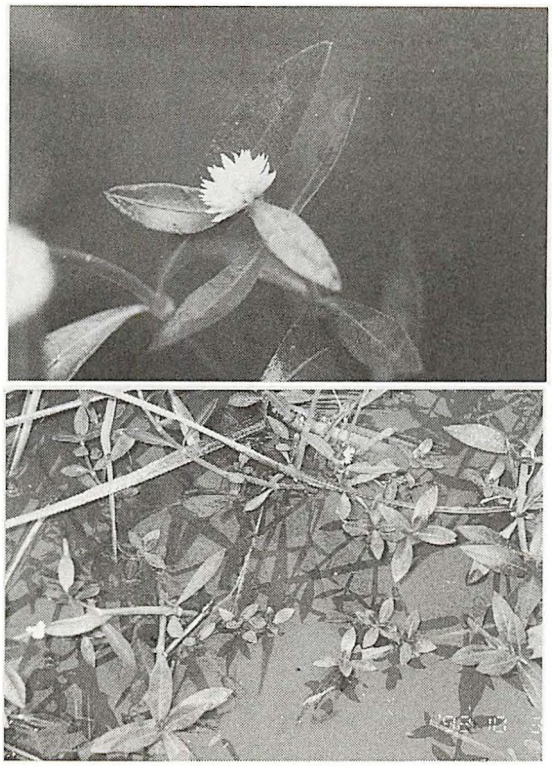

写真　印旛沼のナガエツルのケイトウ

(1992.10.20)